

V 日高振興局

1. 第2回経営発展セミナーが印南町公民館で開催！

県では、地域を担う強い農業経営体の育成を図るため、平成30年度新政策として「農業経営発展サポート事業」を実施しており、その一環として、8月20日、第2回目のセミナーが印南町公民館で開催され、61名が参加した。

セミナーでは、紀の川市の小川農園 小川真司氏から、農業の雇用創出産業化を目指した取組について、また、高知県安芸市の(株)はぐみ農園代表取締役社長 西内直彦氏から、施設環境制御による収量アップと法人化について講演いただいた。

講演後、「経営発展と担い手の確保について」をテーマに座談会を実施し、12名の農業者が参加した。

参加者アンケートでは、「農業経営の考え方や雇用について参考になった」「雇用の仕方や規模拡大に活用したい」「こういうセミナーが今までなかったので面白かった」などの意見があった。また、座談会では、経営発展の課題として、雇用・労働力確保を上げる声が多く、今後、施設環境制御のセミナー開催や経営者の話、法人化や社会保険に関する要望などが寄せられた。

農業水産振興課では、本事業を活用した経営相談や専門アドバイザーの派遣等を通じて、経営発展を望む生産者に対する支援を実施していく。



(株)はぐみ農園 西内氏の講演



講師を囲んでの座談会

2. 平成30年度「農トレ!ひだか」 ～第2回セミナー開催～

8月22日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：柏木研哉）と農業水産振興課の共催により、管内の若手の農業者や新規就農者等を対象とした研修会「農トレ!ひだか」の第2回セミナーを開催した。日高地方4Hクラブ員他合わせて21名が参加した。

今回は、県果樹試験場うめ研究所にて、うめに関する試験研究の取り組みと、近年多岐にわたる分野で利活用されている無人航空機「ドローン」について研修を行った。

まず、うめ研究所の江畑研究員から、品種や栽培技術、果実の加工技術などうめに関する最新の試験研究成果について、講演いただいた。続いて、果樹試験場の熊本主査研究員から、「ドローン」の活用事例や現在進められている研究内容の他、運用に関する注意事項や法律について学習した他、飛行映像を確認した。農業現場におけるドローンの活用は、今は水稻への高濃度農薬散布が中心であるが、ドローンの性能向上と製造コストの低下が進んでいるほか、特定のカメラによる樹体の生育診断などが検討されており、今後ドローンの利用に向けた技術革新に期待が寄せられている。参加者からは、「購入価格はどれぐらいか?」「撮影画像をPCで見る方法は?」など、熱心に質問があった。

講演後は、うめ研究所の場内で、ドローンの試験飛行を見学した。熊本主査研究員が操作方法、飛行時の注意などを説明し、ドローンを飛行させた。初めて飛行する機体を見る参加者も多く、参加者はカメラやビデオに収めていた。「操作は簡単なのか」「かなり遠方でもちゃんと戻ってくるのか」「墜落の危険性は?」など、参加者から質問があった。

近年、飛行映像なども見る機会の多いドローンは、参加者の関心度は非常に高く、有意義な研修会となった。



うめについて講演を行う江畑研究員



ドローンについて講演を行う熊本主査研究員



ドローンの特徴や操作方法について説明を聞く参加者



飛行中のドローンを見学する参加者

3. みなべ町農業振興協議会が2年ぶりに地区懇談会を開催

みなべ町農業振興協議会（会長：木下登吉男）では、農業振興団体への助成事業や幼児を対象とした食育活動、女性農業者活性化事業などに関係機関と連携して取り組んでいる。

平成26年度から3年間、地区懇談会を毎年開催し、生産者が考える町の将来像や課題、また自分自身の経営のめざすべき姿や、そのために必要なこと等について、各9地区でワークショップ形式により、意見を出し合い、集約・発表してきた。

当時は、青梅及び白干梅ともに販売価格が低迷しており、うめ専作経営が厳しい状況であったが、ここ1、2年は、テレビ等メディアの影響により、梅干消費が復調傾向にあるとともに原料うめの不作により、販売価格が堅調に推移している。

販売状況が好転してきている中で、各生産者の現状やこれからの課題などについて話し合うため、今年度、2年ぶりの開催となった。8月下旬から9月中旬にかけて町内全8地区で順次実施し、各地区における課題や意見を集約する予定である。

農業水産振興課では、今後とも当協議会の活動支援を通じて、みなべ町における地域活性化と課題解決に向けた取組を支援していく。



ワークショップによる意見出し



各班の意見を集約・発表